

中央労福協ニュース NEWS LETTER

労働者福祉中央協議会（中央労福協）
 発行人 南部 美智代
 No.186
 〒101-0052
 東京都千代田区神田小川町3-8 中北ビル5F
 Tel. 03-3259-1287 URL <https://www.rofuku.net>



労働者自主福祉運動の前進と労働組合の相互連携へ向けて



中央労福協は1月27日、第1回労働組合会議をWeb開催し、24加盟労働団体が出席した。

冒頭挨拶では、座長の伊藤敏行副会長（フード連合会長）より、加盟労働団体相互の連携と協力関係強化という本会議の位置づけについて説明。そのうえで「コロナ禍の中ではあるが、こんなときだからこそ労働運動と労働者自主福祉運動が連携し、力を発揮していこう」と力強く呼びかけた。

報告事項では、中央労福協・労金運動中央推進会議・こくみん共済coop中央推進会議の三者で実施した加盟労働団体トップ訪問（2021年10月～2022年1月）の総括について報告。労働者自主福祉運動に対して各労働組合のトップの皆さまから頂いた様々なご意見や、要請行動の取り組みの具体的な総括＜成果と課題＞を紹介した。要請書に掲げた“労働者福祉運動の継承の担い手の研修会の実施”の要請を踏まえ、各労働団体から早々に学習会への講師派遣の依頼を受けるなど具体的な成果につながっている【写真①】。

協議事項では、初めに2022年～2023年度の労働団体からの幹事選出を確認した。続いて2022年度活動計画と2022年度主要年間日程ならびに、教育費や奨学金返済の負担を軽減する税制支援を求める取り組みの継続、「教育費負担軽減へ向けての研究会」の設置について意見交換を行った。

さっそく講師派遣のご依頼を頂きました！



【写真①】紙バ連合「青年女性委員会」=1月28日

労働団体トップ訪問をきっかけに、早々に紙バ連合より講師派遣のご依頼を頂き、2022年1月28日にオンライン開催された「青年女性委員会学習会」に参加させて頂きました。「労働者福祉運動について」をテーマに、労福協のこれまでの取り組みやこれからの展望についてお話しし、ご参加の青年女性委員会の皆さまに熱心に聞いて頂きました。

No.186 Topics

- 2面 「教育費負担軽減へ向けての研究会」今春スタート！
持続可能な地球環境を未来の世代へ
- 3面 ろうふくエール基金助成先レポート－京都
- 4面 ろうふくエール基金助成先レポート－長崎
- 5面 第5弾スタート！
連載「助け合い・支え合いの現場から」
埼玉労福協・前専務理事 永田信雄氏

「教育費負担軽減へ向けての研究会」今春スタート！ 第1回幹事会

中央労福協は1月28日、第1回幹事会をWeb開催し、2022年活動計画や年間日程を確認した。特に第3期「奨学金制度改善・教育費負担軽減」運動の取り組みとして「教育費負担軽減へ向けての研究会」を設置し、今春からスタートすることが決まった。

冒頭、中央労福協・芳野友子会長より、「新型コロナ感染拡大は第6波が発生し、依然として先行き不透明な状況である。様々な工夫を凝らし、労働者自主福祉運動を展開し、共助の輪を広げたい。」と挨拶した。

2022年度活動計画（案）では、第65回定期総会で確認された2022～2023年度活動方針に基づき、5つの分野から9つの重点課題を中心に取り組んでいくことが確認された。

第3期「奨学金制度改善・教育費負担軽減」運動として現在も取り組んでいる奨学金返済や教育費の負担を軽減するため税制支援を求めるオンライン署名は、2023年



度の文部科学省税制改正要望事項への反映をめざし2022年6月末まで延長することが確認された。さらに、新たな取り組みとして、「教育費負担軽減へ向けての研究会」を設置し、2020年度に導入された大学等修学支援制度のさらなる拡充や教育費負担軽減をめざし、専門家の協力を得て研究・検討を行い、政策提言などを行っていくことを確認した。

持続可能な地球環境を未来の世代へ

第18回Web学習会開催 環境省2050年カーボンニュートラルに向けた取組

中央労福協は2月4日、環境省大臣官房環境計画課長・松田尚之氏を講師に迎え、世界的な環境課題となっている気候変動とカーボンニュートラルに向けた環境省の取り組みに関するWeb学習会を開催、84名が参加した。

IPCC（国連気候変動に関する政府間パネル）は2021年8月に発表した報告書で「地球温暖化の原因として、人間の活動による影響があることは疑う余地がない」と初めて断言した。気候変動は今やすべての生物の生存基盤を揺るがしかねない危機的状況にある。こうした背景を受け、中央労福協では今期活動方針で「気候危機」を取り上げ、具体的なアクションを起こしていくことを新たに盛り込んだ。

学習会では、地球環境課題への取り組みの入り口として、環境省がカーボンニュートラルに向けて取り組む各施策に関する詳細な解説や、地域の企業、家庭、個人などそれぞれに呼びかけている取り組みについてご紹介を頂いた。松田氏は「地域においては、脱炭素を通じて地域ビジネスの創出や快適な暮らし、災害時の安心など地域課題と併せて取り組んでいく必要がある。やれることから進めていきたい。」と述べた。



松田氏の解説によれば、日本のCO2排出の約6割が衣食住を中心とするライフスタイルに起因するものとのことである。多様な生物が共存し、持続可能な地球環境を未来の世代へつないでいくため、国民一人ひとりが少しでも早く、できることから取り組みを始めていくことが求められる。参加者からは「自組織内でも学習会を開きたい」「地方労福協運動にも活かしていければ」など前向きな意見が寄せられた。今回の学習会を機に中央労福協としても気候危機に対する具体的な取り組みを強めていく。

今こそ、支え合いのとき

ろうふくエール基金

助成先からの取り組みレポート

京都 京都労福協社会的支援活動レポート
長崎 大学生協と手を結び「食の支援」を実施

京都労福協 京都労福協社会的支援活動レポート



京都市寄贈式 2021.9.21

京都労福協は、京都府、京都市を通じコロナ禍により疲弊する「子ども食堂」、「ひとり親家庭の子どもの居場所づくり事業」、「総合支援学校」などの教育現場等に対し、子どもの安心・安全対策として、中央労福協の「ろうふくエール基金」を活用させていただき「新型コロナウイルス感染症」予防対策支援活動として「手指消毒液（アルコールクリーン80）」を寄贈しました。

2021年10月26日（火）の京都府寄贈式では西脇知事へ廣岡会長より目録を手渡し、西脇知事は「今、コロナ過により、子どもの居場所づくりの現場でも安全対策に苦慮されている。今回ご寄付いただきました「消毒液480ℓ」を、子ども食堂48ヶ所、居場所づくり事業30ヶ所で活用させていただき子ども達の安心・安全に役立てさ



京都府寄贈式 2021.10.26

せていただきます」と感謝の言葉を述べられ、廣岡会長に感謝状が贈られました。

また、2021年9月21日（火）の京都市寄贈式では門川京都市長へ廣岡会長より目録を手渡し、門川市長は「市内8カ所の総合支援学校では、基礎疾患のある子ども達も多く、衛生面は特に気をつけなければならない。「消毒液240ℓ」のご支援に感謝しコロナ過での安心・安全に役立ててまいります」と感謝の言葉を述べられ、廣岡会長に感謝状が贈られました。

また、京都市より、京都市自治記念日に際して、京都労福協の支援に対して、「新型コロナウイルス感染症対策支え合い特別表彰」をいただきました。

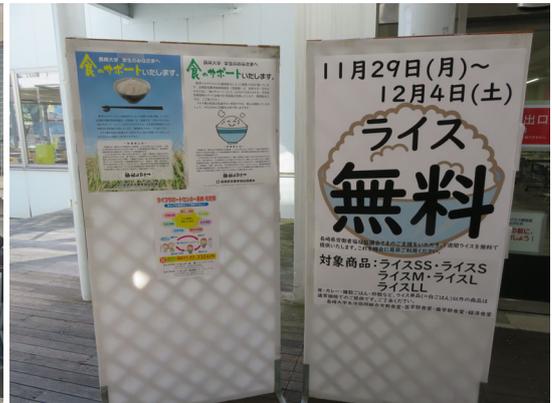
「ろうふくエール基金」特設サイトをぜひご覧ください！

特設サイトでは、ろうふくエール基金からの助成金を活用した全国各地の取り組みを「活用レポート」として公開しています。各取り組みの記事ごとに「いいね！」を付けられるようになっていきますので、ぜひ特設サイトにアクセスして頂き、応援したいプロジェクトに「いいね！」をお願いします！

<https://www.rofuku.net/rofukuyell/>



長崎県労福協 大学生協と手を結び「食の支援」を実施



ポスターを掲示して学生に周知し（写真上）、当日は多くの学生が行列を作った（写真左）

今も続くコロナとの戦い。コロナに勝つのがこんなに難しいとは・・・？
コロナ禍で大きなダメージを受けている学生にエールを送りたいとの思いから大学生協と
労福協が手を結び「食の支援（学食でライスの無料提供）」を実施！

コロナ感染症との戦いも3年目。その未知性と脅威が与える学校の入構制限やオンライン授業の継続、収入減少に伴う生活の窮状等により、学生の心理的、経済的環境は厳しさを増し孤立感や焦燥感が強まっています。私たちは、このような状況で日常を過ごす学生に手を差し伸べたいとの思いで、2021年11月29日（月）～12月4日（土）、長崎大学生協と連携し、長崎大学3地区の学生食堂利用時のライス分無料提供を決め、ライス 4,500食分相当額 50万円を支援しました。最終的な提供食数は6,712食と予想を上回りました。この取り組みはテレビや新聞でも報じられ、学生からは、「ライスが無料だと知り、いつもより大きいサイズが食べられた。アルバイトが減り収入も減ったのでありがたい。麺類にも加えさせてもらった」と喜びの声をいただきました。

取り組みには、LSCのポスター掲示、九州ろうきんの奨学金借換専用ローンのチラシ配布と心の支援も加えました。労福協の提案に共感いただき力強くサポートいた



贈呈式

だいた長崎大学生協に感謝するとともに、労福協加盟構成団体との連携が実現できたことは次のステップにつながりました。この度のエール基金の助成に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

くわしくは「ろうふくエール基金特設ウェブサイト」をご覧ください！

▼ <https://www.rofuku.net/rofukuyell/>



連載

助け合い・支え合いの現場から

今号から第5弾がスタートします。第5弾では、埼玉労福協で2015年より専務理事を務められた永田信雄さんに熱い思いを語って頂きます



一般社団法人
埼玉県労働者福祉協議会・前専務理事

永田 信雄 さん

1976年 9月
埼玉労働金庫（現中央労働金庫）入庫
1983年10月
埼玉労働金庫労働組合
（現中央労働金庫労働組合）書記長
2001年 6月
中央労働金庫労働組合書記長
2010年 3月
（特）埼玉県労働者福祉協議会に
出向し事務局長となる。
2015年 3月
中央労働金庫を定年退職し再雇用嘱託
職員として埼玉労福協出向
2015年 5月
一般社団法人埼玉県労働者福祉協議会
専務理事に就任
2017年 7月
NPO法人フードバンク埼玉理事に就任
2021年 5月
一般社団法人埼玉県労働者福祉協議会
専務理事を退任

この連載について

2018年6月からスタートした本連載企画「助け合い・支え合いの現場から」では、地方労福協を退任した役員で、現役当時に労福協運動の発展に取り組みました方々からお話を伺います。日々目まぐるしく変わりゆく社会情勢の中で、「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」の実現に向け、その豊富な経験や運動への思いを語り、労福協運動を次の世代へと伝えていくことをねらいとしています。

はじめに

埼玉労福協は1972年10月30日に全国46番目の労福協として設立されました。最初に設立された大阪労福協から30年遅れてのことでした。埼玉労福協は本年10月にやっと50周年の設立記念日を迎えます。全国の皆様へ埼玉労福協を理解して頂けることを期待して、2010年3月から現在までの12年間の出来事を中心に活動報告をさせていただきます。



埼玉労福協設立総会=1972年

●埼玉労金は3番目、埼玉労福協・埼玉労済は46番目は「何故」??

1972年、2月に埼玉労福協設立委員会が設置されたのですが、それが労働金庫の理事会で決議されたというエピソードが残っています。その理由は、埼玉労福協が設立されたころ、埼玉県内では埼玉県労評（総評）と埼玉同盟（同盟）、電機労連など5団体の力関係にありました。各労働団体の組織人数が労働金庫の理事数などに反映していましたから、労福協の理念である「福祉はひとつ」が労働金庫の役員体制に体现されていたからです。

埼玉労福協の設立総会の様子が最初に告知されたのが、「埼玉労働金庫だより」だったのも特徴的です。ちなみに埼玉労福協だより1号は、翌年3月でした。

埼玉労済は全国46番目の共済生活協同組合として1964年に開業しましたが、埼玉の労働組合と組合員は今では想像もつかない組織力を発揮したといえます。あとで詳しく報告させていただきます。

●30年遅れの埼玉労福協の役割は・・・

埼玉労福協は、労働5団体と福祉事業5団体により設立されましたが、「畑和革新知事」の誕生と時期が一緒だったこともあり、埼玉労福協は「畑革新県政」とともに歩んだとも言われています。そして埼玉労福協の最初の仕事は、1973年3月に「労働者福祉講座」を開催したことです。この「労働者福祉講座」には畑和埼玉県知事が毎年出席し2004年まで続けられました。

もう一つの事業は、「(財)勤労者福祉センター」を設立し、開業することでした。設立総会において「労働者福祉センターの建設」を決議した埼玉労福協は、埼玉県や関係団体との協議をすすめ、7年後の1979年9月には結婚式場や宿泊施設を持つ勤労者福祉センター（ときわ会館）を開業させました。

●連合時代の新生労福協の課題

1989年12月16日、「連合埼玉」が結成されると、埼玉労福協は「連合埼玉+労働者福祉事業団体」による新生労福協として再スタートしましたが、それまで一緒に活動してきた地区労との関係整理には長い時間が掛かりました。

労福協の地域組織（地域労福協）は、「連合地協と表裏一体」と位置付けられ、再編されたのですが、連合埼玉と連合地協の関係は「縦」、地域労福協と埼玉労福協は「横の連携団体」となり、「縦」と「横」が協力・連携して課題に取り組む体制ができました。



避難者支援集会で挨拶する永田氏

埼玉県には第2の賀川豊彦がいました！

手前味噌ですが、私たち埼玉の労福協関係者が密かに「西の賀川豊彦、東の井堀繁雄」と自負する井堀繁雄というリーダーの存在がありました。

賀川豊彦と言えば農民運動、労働運動、そして労働者福祉運動の「父」ですが、埼玉県にも

賀川豊彦の薫陶をうけた活動家がありました。名前は井堀繁雄と言い、埼玉労働金庫の前身である埼玉県労働信用組合の最初の店舗は井堀氏の事務所だったといえます。埼玉県ではこの類まれな労働運動、社会運動家と労働5団体が埼玉の労働者福祉運動を开花させたと思います。



ろうきんマスコットキャラクター「ろっきー」

はたらくあなたの、いちばんそばに。

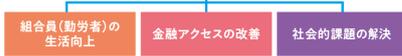


“ろうきん運動”と“SDGs” SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

組合員のためのろうきん運動推進が“実は”SDGsの達成につながっています！

ろうきんは、組合員やはたらく人の「可処分所得向上」や「お金に関する知識の向上」をめざし、労働組合と一緒にセミナーや学習会の開催などに取り組んでいます。また、ろうきんでお預かりしたお金は、組合員のニーズに応じた融資やESG投資などに活かされています。労働組合をはじめとする会員のみならずが組合員とその家族の暮らしを守るため“ろうきん運動”を推進することが“実は”SDGsの達成につながっているのです。

ろうきんの取り組み (ろうきん運動の推進)



SDGsの達成!

詳しく知りたい方はこちらから

ろうきん SDGs 検索 <https://all.rokin.or.jp/about/sdgs.html>



北海道ろうきん・東北ろうきん・中央ろうきん・新潟ろうきん・長野ろうきん
静岡ろうきん・北陸ろうきん・東海ろうきん・近畿ろうきん・中国ろうきん
四国ろうきん・九州ろうきん・沖縄ろうきん
<https://all.rokin.or.jp/info/list.html>

お近くの
ろうきんの
ウェブサイトは
こちらから



2021年4月1日作成